

I K U S E I

わくせいの

2019 57



公益社団法人 競走馬育成協会

CONTENTS

■巻頭言

「馬強ければ国強し」

(JRA 日高育成牧場場長 高嶋民治) ①

■特 集

①平成 30 年度 育成技術講習会 講演録 ②

演題：「馬をコントロールするための騎乗者の役割」～実馬を用いた講習会～

講師：戸本 一真 氏，解説：北原 広之 氏（JRA 馬事公苑）

②牧場就業者参入促進事業

「競走馬の牧場で働こうフェア BOKUJOB2019」 ⑤

■行 事

①平成 30 年度 育成等に関する懇談会 ⑧

②平成 31 年度 定時総会開催 ⑩

■事 業

①育成技術講習会 ⑪

②育成技術表彰事業 ⑫

③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ⑮

④競馬関連機材等有効活用事業 ⑯

⑤軽種馬経営高度化指導研修（人材養成） ⑱

■お知らせ

○賛助会員のご紹介 ⑲

○JRA からのお知らせ ⑳

■巻 末

○地方競馬の馬主になりたい（NAR）告知 ㉑

○育成協会人事（職員異動） ㉑



題字 元会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

馬強ければ国強し



JRA 日高育成牧場場長
高嶋 民治

JRA 日高育成牧場の高嶋です。本年3月に総合企画部経営企画室長から現職に就きました。どうぞよろしくお願いたします。

日高育成牧場は今年で開設54年ですが、その所在地である浦河には、かつて国営の日高種馬場（明治40年開設）があり、110年以上前から日本の馬匹改良の中心的役割を担ってきました。

「馬強ければ国強し」。戦前の標語から想起されるように、馬は「活兵器」として軍事上重要な存在でした。しかし、明治時代、日本の馬は小柄で気性が荒く、欧米の軍馬に比べて大きく劣っていました。軍馬の改良は明治政府の大きな課題とされ、明治39年から「馬匹改良30ヵ年計画」がスタートしました。浦河に種馬場が作られたのは、こうした流れによるものです。

また、同じ時期に馬券発売を伴う競馬が認められたのも、競馬を馬の改良に役立てようという明治政府の考えによるものでした。その後、馬券が禁止されると競馬は一時衰退しますが、大正12年に競馬法が制定され馬券が復活すると活況を取り戻し、昭和初期には馬の改良も大きく前進しました。

しかし、この時代の軍部が求める「強い馬」とは、「性質温順で、身体強健かつ持久力に富む」実戦向きの馬でした。そのため、サラブレッドよりアラブ系が望ましいとされ、長距離競走や障害競走の振興が競馬主催者に求められました。軍の要求と競馬の面白さとを両立させなければならなかった先人の苦勞が偲ばれます。

国の方針のもと、戦前の日本には約150万頭もの馬がいて、多くが戦地に赴き、戻ることはありませんでした。戦後、馬は兵役から開放されましたが、時代の変化とともに農耕や運搬などの仕事も減り、その数は約7万頭にまで減っています。

浦河の日高種馬場（戦後、日高種畜牧場と改称）

もやがてその役割を終え閉場となりました。JRAは跡地の払い下げを受け、平成5年に「BTC調教場」を含む日高育成総合施設を開設しました。

敗戦を境に、競馬を巡る状況は一変しました。しかし、戦前戦後を通じて変わらないのは、日本の競馬が常にお客様に支えられてきたということです。戦後、日本の競馬は本来の意味の強い馬づくりに力を注ぐことができ、多くのお客様から支持を頂いて「健全な娯楽」として定着しました。

特に平成の時代には、育成調教技術の進歩など関係者の長年の努力が実を結び、日本の馬が世界中で活躍するようになりました。今、日本の競馬は国際的なスポーツエンターテインメントとしての地位を確立しつつあります。

そして、令和の時代、日本の競馬は更なる高みに到達するでしょう。

「馬強ければ国強し」。この言葉は今の時代にもあてはまると私は考えています。ここでいう「強い国」とは、「人々が心豊かに安心して暮らせる国」という意味です。

私たちは、馬とのふれあいが人の心を豊かすることを経験的に知っています。人にとって馬はかけがえのない存在であり、今日本にいる馬の大半は競走用の馬です。競馬事業の持続的発展なくして日本の馬の存続は望めません。

競馬関係者が強い馬を育て、魅力ある競馬をお客様にお届けすること。競馬や乗馬を含め様々な場面で日常的に人と馬がふれあえる機会を創出すること。馬の居場所をもっと増やすこと。これらを一体的に推進することで、日本は成熟した強い国となり、競馬は社会になくはない存在となるはずで

日高育成牧場も日々の業務を通じて強い馬づくりと馬事の振興に取り組み、人馬の幸福に貢献できるよう皆様と共に歩んでまいります。

平成30年度 育成技術講演会講演録 (北海道地区)

日 時：11月21日(水) 17:30～19:00
 場 所：(公社)日本軽種馬協会 静内種馬場 研修所 覆馬場
 内 容：「馬をコントロールするための騎乗者の役割」～実馬を用いた講習会～
 講 師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏
 解 説：JRA 馬事公苑 調査役 北原 広之 氏
 参加者：213名
 主 催：(公社)競走馬育成協会

講師：戸本 一真 氏

プロフィール

2011 全日本障害馬術選手権大会 準優勝
 2012 全日本障害馬術選手権大会 4位
 2013 JRA ホースショー グランプリ 優勝
 〃 CSI-W 千葉 グランプリ 優勝
 2013 全日本障害馬術選手権大会 4位
 2015 渡英 総合馬術に転向

2017 Blenheim CIC 3* 準優勝
 2018 Barroca CCI 3* 4位
 〃 トライオン世界選手権 団体4位
 イギリスのトップライダーである William Fox-Pitt 選手のもとで研修中

解説：北原 広之 氏

プロフィール

1999 ドイツにて馬場馬術研修(2年間)
 2002 プサンアジア大会 馬場馬術競技 団体銀メダル
 2004 全日本馬場馬術選手権大会 優勝
 2006 同大会 3連覇達成
 2007 ドイツを中心に国際競技を転戦(1年間)

2010 世界馬場馬術選手権(ケンタッキー) 日本代表
 2015 全日本馬場馬術選手権 準優勝
 2016 全日本馬場馬術選手権 準優勝
 2018 ドイツにて東京五輪出場を目指し研修中

講習会概要

東京2020オリンピック大会出場を目指す2人の一時帰国に合わせ、静内での講習会が実現しました。

障害のトップライダーである戸本氏は、2015年に総合馬術に転向し、イギリスで技術研鑽中。講習会前のトライオン世界選手権では、メダルまであとわずかに迫る日本の団体4位に貢献しました。

全日本馬場馬術選手権3連覇の実績を持つ北原氏は、ドイツで研修中。これまでも静内や両トレンなどでの実践的でわかりやすい講演に定評があります。



当日は、実馬2頭に講師・戸本氏が騎乗しながら説明、これに北原氏が解説を加える形で講習会が実施された。タイプが違う2頭を使い、日頃の育成・調教で苦勞するであろう点の紹介や、騎乗時にありがちな悪い例の紹介などがなされた。

騎乗しながら、馬への指示や馬の動きを直接丁寧に説明し、馬の状態が変わっていくのが、目に見えてわかるため、受講者からはとてもイメージしやすいと好評であった。

講習内容

1 頭目 騎乗者の悪い例の実演～良い例の実演(競走馬に求められるハミ受けの実演)

【馬のタイプ】

- ・基本的なハミ受けに問題は見られない(高⇔中⇔低それぞれの体勢を保つことが可能)

【馬に求めること】

- ・高⇔中⇔低それぞれの体勢で固まってしまうのではなく、それぞれの体勢に変化させ馬がいつでも

柔軟に動ける状態（全身を使って走れる状態）にしておく。

- ・騎乗者がそれぞれの体勢に変化させられる・体勢を創り出せるという関係性が大切。

【最終的な状態】

- ・高⇔中⇔低の体勢をスムーズに変化させられる

☆乗り変わり中に「馬術的なハミ受けと若い競走馬に求められるハミ受けの違い」を主に説明



2頭目 頭を上げてハミを受けない馬への実演

【馬のタイプ】

- ・テンションが上がりやすく、騎乗者の指示に耳を傾けない。
- ・ハミ受けが不安定で一定の体勢で動くことができない。
- ・ハミ受けの問題を改善しようとする、脚に反抗し前進氣勢が無くなる。

【馬に求めること】

- ・馬が主導権を握る（わがまになる）前に騎乗者が指示を出し騎乗者に耳を傾けさせる。
- ・最低限の前進氣勢を保ちつつ体勢を安定させる。常に真っすぐ直進させる。

※今日の段階としては“安定する”ということがこの馬にとってのハミ受けであり、頭が折れたことがゴールではない。

【最終的な馬の状態】

- ・高⇔中⇔低それぞれの体勢が安定する。（体勢の変化までは求められない）

質疑応答

① 成長途中にある若馬に対し、左右の歪み強制についてどの程度要求してよいか？

（戸本）：左右均等の馬は殆どいません。大切なことは、そうした馬の欠点を騎乗者が把握することです。そして、その弱点をどのように矯正するかを考え

て対応できる技術を持つことです。そして、どの頻度で、どの程度要求するかについてですが、私の意見は、苦手な手前に関しては多くの時間を割いて取り組むということです。左右均等とまでいなくても、取り組むことによって問題が和らぐことは確かです。

（戸本）：私も左右の歪み強制に関しては取り組んでいくべきだと思います。競走馬は年齢による制限があるということを考えれば、乗馬よりも積極的に取り組んでいかなければなりません。成長や健康面に支障をきたしていないかということ日々注視してトレーニングの方向性を決定することが重要であると思います。

② 走行時の重心について、前のめりで伸びた状態（トモを使わずに走行している状態）で走っている馬の矯正法はどのようにしたらよいか？

（北原）：サラブレッドでは、重心が前のめりになっている割合のほうが多いと思います。こうした馬は速く走るほど低くなっていきます。しかし、その馬の持つ能力を最大限引き出して速く走らせるためには、馬体の伸縮運動が必要になり、伸びるためには縮ませることができなければなりません。馬のバランスを起こす原理は、後ろ肢が馬体下へ踏み込ませ、頭頸を上げさせます。そのバランスを馬自身に維持させ（セルフキャリッジ）ます。常歩やダクなどのコントロールが効きやすい動きの中で確率することが先決です。（「競馬術通信 Vol.3」参照）



（戸本）：栗東トレーニング・センターでも同じような質問がありましたが、バランスを起こす方法は私も北原氏と同様の考え方です。トレセンのような施設では馬場の使用に関して様々なルールが存在しているため、その馬に必要なトレーニングを必要なタイミングで行うことはできません。（例えば坂路の途

中で巻き乗りをするなど。) よって、角馬場のよう
に自由な図形で騎乗できる場所で正しいバランスを
確立しておくことが大切だと思います。

③ 若手の騎乗者に思い切った前進氣勢を教えるには
どのような方法が有効か？

(北原)：まずは、馬がどのような動きをしたとして
も落馬しない乗り方ができている必要があります。
その中でしか馬に対して積極的な扶助は出せませ
ん。そのためには、若手騎乗者に対する指導者が
計画的に育成プログラムを実行しなければなりませ
ん。根性論などで強制することは、非常に危険
です。騎乗者が日々成長し、自信を持ってくると
積極的な扶助が出せるようになります。指導者は、
その状況を判断して自分が持つ感覚を伝えるよう
にしましょう。

④ 騎乗者の馬を走らせる際の恐怖
心に対する対処方法はどのよう
なことを心掛けているのか？

(戸本)：今自分がやるべきことは
何か？次に何をしなければなら
ないのか？というように自分が
取るべき行動だけを考えるよう
にして、余計なことを考えない
ように恐怖心から自分の意識を
遠ざけるようにしています。

⑤ 収縮を求める際に正反撞を用い
るものうまくいかない。正反
撞をする際の注意点やコツがあ
れば教えて欲しい。

(北原)：正反撞を正しく受けられ
ることは非常に重要です。その
ための訓練は練習馬などがいれ
ばその馬で訓練するのが良いで
しょう。非常に長い時間を要し
ます。

ここ最近私が感じていること
は、騎乗者の鎧へ体重がきちん
と抜けていることが大切です。
正反撞が不安定な状態で、馬に
指示を出したとしても、良い反
応を得られないでしょう。その
段階であれば、無理に正反撞を

とって馬の背中動きを妨げてしまうよりも、両
鎧に乗れていることを感じることを優先しましよ
う。(「競馬術通信 Vol. 4」参照)

(戸本)：“正反撞でなければ収縮を求められない”と
いうわけではないと考えています。収縮の度合い
(馬に何をどこまで求めるのか)によって必要な扶
助が異なり、必要な扶助に応じて騎乗者のポジシ
ョンは異なるため、競走馬にどこまで何をやらせた
いかという点で必要に応じて正反撞を用いてみて
下さい。

※ 美浦・栗東で実施した戸本氏・北原氏の講習会の
動画は(公社)競走馬育成協会のホームページに
て配信しております。

育成技術講習会 in 北海道

馬をコントロールするための 騎乗者の役割

～実馬を用いた講習会～



講師：戸本 一真 氏
(JRA 馬事公苑 普及課)



解説：北原 広之 氏
(JRA馬事公苑 調査役)

日時： 11月21日 水 17:30～19:15

場所：JBBA静内種馬場 研修所 覆馬場 (新ひだか町静内田原)

東京2020オリンピック大会出場を目指す2人の一時帰国
に合わせ、静内での講習会が実現します。
障害のトップライダーである戸本氏は、2015年に総合馬
術に転向し、現在はイギリスで技術研鑽中です。先日のトラ
イオン世界選手権では、メダルまであとわずかに迫る日本の
団体4位に貢献しました。
全日本馬場馬術選手権3連覇の実績を持つ北原氏は、
現在ドイツで研修中。これまでも静内や両トレンなどでの実
践的でわかりやすい講演に定評があります。

お問い合わせ：
公益社団法人競走馬育成協会 TEL 03-6809-1821
競走馬育成協会 北海道地域団体(支部) TEL 0146-42-2544

主催 公益社団法人 競走馬育成協会
共催 日本中央競馬会・公益社団法人 軽種馬育成調教センター
協力 公益社団法人 日本軽種馬協会



静内農業高校
石山組
総合研修センター
事務所
研修所 覆馬場
日本軽種馬協会 静内種馬場
二十間道線静内駅
入口はこちらです

牧場就業者参入促進事業 「BOKUJOB2019 メインフェア」

平成22年から「地方競馬全国協会からの補助金事業」として令和元年までの期間実施しております「牧場就業者参入促進事業」の中で、表題の「BOKUJOBフェア2019」は、牧場版の合同企業説明会、および軽種馬産業を広く知っていただく機会として位置づけています。

このフェアを中心に3月には、関東・関西の育成牧場において「日帰り見学会」を、8月の夏休み期間中には、北海道において5泊6日の「夏休み牧場で働こう体験会」、3泊4日の「研修コース体験入学会」をそれぞれ開催してきました。

これは、牧場に就職をしようと考えている若者や保護者の方々に対して、実際に生産育成の現状を知っていただくことが狙いです。参加者が「牧場で働くことの楽しさ、達成感、また厳しさ」などを、メールやSNSなどを用いて、友達などに口コミで広げてもらう効果も期待できます。

本年度も昨年に引き続き、6月の安田記念開催週にJRA東京競馬場イーストホールにおいて「BOKUJOB2019メインフェア」を、また宝塚記念開催週にJRA阪神競馬場において「BOKUJOB2019関西フェア」を開催いたしました。

なお、3月の「日帰り見学会」では、関東・関西の育成牧場の皆様に、また、8月の「夏休み牧場で働こう体験会」では北海道の牧場の皆様に、多大なるご協力をいただきました。本誌面を借りて御礼申し上げます。

◆◆「BOKUJOB2019 メインフェア」◆◆

1. 概況

◎「BOKUJOB メインフェア（東京競馬場）」

- (1)日 時 6月1・2日(土・日) 10:00~15:00
- (2)場 所 東京競馬場 イーストホール他
- (3)協 力 競走馬のふるさと案内所・静内農業高等学校・日本装蹄協会
- (4)来場者 269名
(社会人・大学生他112名、高校生以下65名、保護者他92名)

(5)内 容

- ① 生産育成牧場との面談コーナー
- ② JBBA・BTC・装蹄教育センター研修施設説明コーナー
- ③ 静内農業高校による保護者等への進路相談・説明コーナー
- ④ BOKUJOB事務局員による相談・説明・紹介
- ⑤ 競走馬のふるさと案内所の紹介

メインフェア来場者の推移

	社会人 大学生	その他	高校生	保護者	合 計	
2010年	450		150		600	
2011年	272		178		450	
2012年	210		199		409	
2013年	208		243		451	
2014年	169		106		275	パークウインズ 7月開催
2015年	50	200	36	34	320	開 催 日 10月開催
2016年	73	73	50	58	254	開 催 日 6月開催
2017年	69	49	34	43	195	〃
2018年	83	104	38	29	254	〃
2019年	112	22	50	85	269	〃

2. 広 報

- (1)ポスター・チラシ送付 全国686箇所（ポスター1,058枚、チラシ31,580枚）農業高校、馬術部のある学校、動物系専門学校、競馬関連施設他多数
- (2)JRA ホームページ・BOKUJOB ホームページでのCM等 Web 告知展開
- (3)競馬週刊誌 Gallop・うまレター等の告知広告
- (4)Facebook、Twitterによる情報発信、各方面へのフォローの依頼
- (5)YouTube 映像の作成と広報展開
- (6)農業系高校の担当教諭への訪問・説明

3. 事務局所感

雑誌広告等の従来型告知に加えて、昨年リニューアルしたBOKUJOBホームページでの告知を中心に、既存のSNSによる積極的発信、YouTube映像の作

成と広報等の web 展開に重点を置き、対象となる参加者を少しでも多く集めるため JRA 等関連機関と連携して若年層をターゲットに活発にイベント告知を展開した。

会場については、例年通り東京競馬場のスタンド 1 階イーストホールに会場を設営のうえ、本年はサテライトテントを正門付近の屋外に設置、競馬場来場者にもイベントの開催をアピールして積極的に会場への誘導を実施した。参加牧場が毎年増加していることから会場設営が困難になりつつあるのが今後の課題となる。

本年はグッズの抽選を面談終了者に限定する等、本気度の高い参加者を重視する施策を取ったため、一般見学者は激減したがターゲット層は増加、結果として参加者全体も増加となった。年々、既卒社会人の参加は増加しているが、若年層人口が減少傾向にあり有効求人倍率が上昇気味な昨今の日本において、どの業界も人員不足が深刻であるなか、あらゆる方策を講じて対象参加者が減少しないよう努力する必要がある。なお、開催時期や場所は参加者からも好評を得ており、同一時期や同一場所で継続することにより、一層 BOKUJOB の認知度向上を図ることが望まれる。

【出展牧場】

イクトレトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーブル、栄進牧場& EISHIN STABLE、エクワインレーシング、ST ウィンファーム、エバーグリーンセールスコンサインメント、追分ファーム、岡田スタッドグループ、クラウン日高牧場&アローファーム&クラウン富里牧場、グランデファーム、グランド牧場、グリーンウッド・トレーニング、下河辺牧場、社台コーポレーション、社台ファーム、白井牧場、ダーレー・ジャパン・ファーム、大山ヒルズ、千代田牧場、Tomorrow Farm、ノーザンファーム、ノースヒルズ、坂東牧場、ヒイラギステーブル、ビッグレッドファーム、フジワラファーム、前田ファーム、松風馬事センター、山口ステーブル、吉澤ステーブル、吉澤ステーブル WEST、レイクヴィラファーム

合計32牧場

◆◆「BOKUJOB2019 関西フェア」◆◆

1. 概況

◎「BOKUJOB 関西フェア（阪神競馬場）」

- (1)日 時 6月22・23日（土・日）10:00~15:00
- (2)場 所 阪神競馬場 アメニティホール
- (3)協 力 競走馬のふるさと案内所・静内農業高等学校

(4)来場者 248名

（社会人・大学生105名、高校生以下59名、保護者他84名）

(5)内 容

- ① 生産・育成牧場との面談コーナー
- ② JBBA・BTC 研修施設説明コーナー
- ③ 静内農業高校による保護者等への進路相談・説明コーナー
- ④ BOKUJOB 事務局員による相談・説明・紹介
- ⑤ 競走馬のふるさと案内所の紹介

関西フェア受付来場者の推移

	社会人 大学生	見学者	高校生	保護者	合 計	ホール内 入場者
2012年	151 (含保護者)		28	←	179	1,486
2013年	28	16	20	23	87	282
2014年	104		10		114	382
2015年	37	118	32	45	232	1,019
2016年	40	57	29	48	174	
2017年	40	73	38	43	194	
2018年	51	153	32	21	257	
2019年	105	36	34	73	248	

2. 広 報

- (1)ポスター・チラシ送付 全国686箇所（ポスター1,058枚、チラシ31,580枚）農業高校、馬術部のある学校、動物系専門学校、競馬関連施設他多数
- (2)JRA ホームページ・BOKUJOB ホームページでの CM 等 Web 告知展開
- (3)競馬週刊誌 Gallop・うまレター等の告知広告
- (4)Facebook、Twitter による情報発信、各方面へのフォローの依頼
- (5)YouTube 映像の作成と広報展開
- (6)専門学校でのフェア紹介ブース開設

3. 事務局所感

メインフェアに引き続き SNS や各種媒体を活用して、若年層をメインターゲットに積極的にイベント告知を展開した。

会場については、昨年同様阪神競馬場のアメニティホール 1 階全体をイベント会場として設営し、誘導等により競馬場来場者にもイベントの開催をアピールした。

メインフェアと同様にグッズの抽選を面談終了者

に限定する等、本気度の高い参加者を重視する施策を取ったため、一般見学者は激減したがターゲット層は既卒社会人を中心に増加、結果として参加者全体は微減に留まった。また、春の牧場見学会参加高校の教諭と連絡を取ったり、直前に専門学校にフェア紹介のブースを開設したりしたことにより、若年層も高校生と専門学校生を中心に前年を上回る結果となった。

昨年より図書閲覧コーナーを含めてアメニティホール1階全体をイベント会場として利用しエントランスホールで受付等をできているため、交流コーナーや団体ブースを有効に設定して、混乱なく各牧場との面談や各団体の説明等がなされ、参加者の円滑な誘導ができた。限られたスペースではあるが多少の混雑は賑わいを感じられ、参加者も目的を持った者がほとんどとなっているため中身の濃いイベントとなった。

今後とも、関西地区における主力イベントとして、この時期に固定して、屋内であるこの会場において継続的な実施が必要と考えられる。

【出展牧場】

イクタトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーション、EISHIN STABLE、グリーンウッド・トレーニング、信楽牧場、大山ヒルズ、辰美牧場、ノーザンファームしがらき、ヒイラギステーブル、吉澤ステーブル WEST 合計10牧場

最後にこの場をお借りしまして、出展協力いただきました牧場関係者の皆様、競走馬のふるさと案内所様、静内農業高等学校様、施設利用等に配慮いただきましたJRA 東京競馬場並びに阪神競馬場の皆様方に対し、御礼申し上げます。

～お知らせ～

競走馬生産・育成牧場応援サイト「BOKUJOB」に求人牧場の告知広告を掲載してみませんか。

まずは、Webサイト「BOKUJOB」を検索いただき、掲載されている内容をご覧ください。

求人牧場の紹介記事の掲載費用は無料ですので、ご希望の方はWebサイトから直接、若しくは、記入フォーマットを印刷しFAXにて協会までご連絡ください。

東京事務局 電話 03-6809-1821
 FAX 03-6809-1822

メインフェア（東京競馬場・イーストホール）



関西フェア（阪神競馬場・アメニティホール）



平成 30 年度「育成等に関する懇談会」の開催

JRA と競走馬育成協会との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。平成30年度の懇談会は10月5日午前10時 JRA 本部9階第4会議室において、JRA から木村一人馬事担当理事、小玉剛資馬事部長、上野儀治競走部長、和田信也生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめとし地域団体を代表する理事等（欠席理事1名）のほか担当職員が出席して開催されました。

開会挨拶

まず JRA 木村理事より、台風や地震被害へのお見舞い、日本の競馬システムの有用性、ギャンブル依存症への対応、競馬産業の人材確保等をテーマに開会の挨拶がありました。その後、当協会栗田会長からは、育成技術表彰、BOKUJOB の苦勞、外国人受け入れ体制、若者が馬に関心をよせる施策等をテーマに挨拶がなされました。

セリ市場の動向と引退競走馬のリトレーニング

続いて JRA から「セリ市場の動向」の報告等がなされた後、「引退競走馬のリトレーニング」について説明があり、引退競走馬の活用アピール、トレーニング手法の普及、該当馬の配布等について、当協会からも質問や意見が出されました。

競馬学校厩務員課程の見直し

その後 JRA から「国際競走のための一時輸入衛生条件の運用変更」及び「競馬学校厩務員課程の見直し」について説明がありました。特に競馬学校厩務員課程の見直しの上限年齢撤廃については、当協会から強い不満と残念な旨の意見が出されましたが、JRA からは、事前にお知らせしておこうというものであり方向性は変わらないし、当面の間は実際に合格する者の数は変わらないと思う、という見解が示されました。当協会としては非常に強い危機感を表明したところです。

BOKUJOB の活動状況と育成等を取り巻く状況について

次に当協会から「BOKUJOB の活動状況」の報告と以下に記載した「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対する JRA の見解等が示され、それぞれに意見交換がなされました。

「育成等を取り巻く状況について」

平成30年、全国を襲った大阪地震・7月豪雨・台風21号・北海道地震といった自然の猛威は、多くの育成牧場に様々な爪痕を残しています。

こうした現状の中でも生産地やトレセン周辺における育成牧場は、トレセンが実施していない競走馬になるための騎乗調教や出走臨戦態勢のための出走間の維持調整を実践し、新馬戦をはじめとした出走頭数の確保に寄与しています。

育成牧場は競走馬のライフサイクルのひとつのステージとなっており、中央競馬の安定には不可欠な役割を担い、高度で繊細な技術を求められています。しかし、他の分野に比べて、その評価と支援は十分に届いているのでしょうか。

「育成」という業界を災害から守り安定して成熟させることが、現在のような中央競馬を維持していくことにつながると考えられます。そのためにも育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。出走馬の充実に貢献している成果と強い馬づくりに必要不可欠な役割を担っていることが評価され、育成という業界が安定的に活動できるよう JRA の前向きな支援が望まれるところです。

1. 人材の確保・養成について

育成調教に係る人材の確保・養成は競馬サークル全体の深刻な課題となっています。最近では日本の社会問題でもある少子高齢化や景気動向による他種業界の雇用環境の改善などの影響を受けて、軽種馬業界は就労者の獲得に苦慮する状況が続いています。

これについては当協会を事務局に JRA を含めた軽種馬関係5団体が連携して「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）」を実施しており、「BOKUJOB」の知名度は少しずつ浸透して、

牧場就労につながったという実例など、本事業は地味ながら着実に成果をあげてはいます。しかし、対象となる若者の減少や他業種との競合などの現実には厳しく、多彩な広報を展開するものの、減少を食い止めるのがやっとという現況で人材不足は続いています。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。しかしながらなかなか有効な手立てが見つからないのも事実です。生産育成の業界としても労働環境の改善などに取り組むことで、騎乗技術者の就労や養成につながるものと認識していますが、劇的な変革は困難な状況です。これらのことから業界では労働力不足を外国人に依存するようになってきています。彼らとどう向き合うのか考えなければならぬようになってきていると思われま

す。今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成に関連して、JRAの多方面からの支援をお願いします。

2. 育成技術表彰について

新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向けて臨戦態勢での維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務の証として、育成技術表彰事業は会員から強い関心と意欲をもって注目されています。

平成30年度のJRA助成予算において褒賞費総額を増加していただいたことから、平成30年度終了時の褒賞額単価はここ数年の実績を上回るものと推定されます。一方で競走体系や競走数などが年々変化したり、当協会会員育成場の育成馬の表彰実績がたいへん高かったりすることから、協会の育成技術表彰規程に定める原則単価100,000円にはまだまだ届きません。

生産牧場は現在まで経営基盤に様々な対策がなされてきましたが、育成牧場は後発で役割が高まってきたことから、生産者賞のような制度はなく、直接的に成果が反映されるのは「育成技術表彰制度」だけあります。この「育成技術表彰制度」の全体的な価値を拡大し、競馬サイクルの一翼を担う育成牧場の基盤整備に寄与することが望まれるのではないかと考えられます。そうした還元が就労環境を整え後継者の養成や育成技術者の確保などにつながると思われますので、さらなる支援の増強をお願いします。

一方、JRAのご協力により競馬場における2歳ステークス競走の会員表彰を現在重賞6競走で実現しており、会員の大きな励みとなっています。引き続き表彰機会の提供をお願いするとともに、対象競走の拡大についても検討をお願いします。

3. 育成牧場の基盤強化対策について

育成牧場には、人材確保、技術者養成、技術向上、設備投資、先行投資が必要です。農業に分類される業種ではないため公的で有利な制度は少なく、その一方で設備投資などの規模は大きくなってしまいました。近年、トレセンとの連携が緊密になり、育成牧場における施設・機材などの整備は経営上重要な課題となっています。また人材確保の面からも経営基盤安定が不可欠になります。

低金利時代を反映して、平成29年の利子補給事業は新規6件を開始しました。今なら各牧場が少し前向きにこの制度を利用できるようになってきたのでしょうか。そんな矢先に全国を襲った豪雨・台風・震災が、育成牧場の前向きな姿勢を足踏みさせないようにしなければなりません。

特に競馬関連機材等有効活用事業については、JRAに様々なご協力をいただいております。この事業は牧場経営上の即効性があることから、会員の関心と要望も強く抽選倍率も高くなっています。より多くの機材が育成牧場で有効に活用できますよう、関係団体を含め、より一層の援助を期待するところです。

JRAの見解と懇談内容

1. 人材の確保・養成について

JRAからは、人材確保は競馬サークル全体で取り組むべき課題と認識しています。JRAとしても人手不足については大きな課題と受け止めており、BOKUJOBの活動をはじめ、引き続き支援していきたいと考えています、という見解が示されました。

当協会からは、競馬学校厩務員課程の見直しによる牧場の人材確保への深刻な打撃懸念、若者の生活安定と雇用安定のための収益確保の困難さ、外国人材への依存と現状の苦労、将来への不安、新たな外国人材受入制度への対応等、JRAも共に考えて協力していかないと競馬産業の根幹が揺らぎかねない旨の危機感を伝えました。

2. 育成技術表彰について

JRAとして重要性は認識しています。平成30年度は予算の増額を実施しており、次年度の増額にむけて調整を進めています（平成31年度はリステッド競走を対象とすることで、全体額が大きく増額となりました）。競馬場での表彰については、レースの遅延につながるため、増やすことは難しいかもしれませんが、現在実施している競走については引き続き実

施できるように努めます。

3. 育成牧場の基盤強化対策について

競馬関連機材有効活用事業については、平成29年34件、平成30年は20件でありました。JRAとしても必要な機材の更新を実施することで有効に活用できると考えているため、引き続き要望に答えられるように努めます。

以上のように、この懇談会は比較的自由な意見交換ができることから、平成30年は特に「人材の確保・養成について」という話題に関連して、「競馬学校厩務員課程の見直し」「外国人雇用の現状と将来」「雇用環境の良化と牧場経営基盤の安定」等について多くの時間を費やし、様々な懸念表明や意見交換がなされました。

行事2

定時総会開催

平成31年度定時総会は、平成31年2月15日に日本中央競馬会本部（六本木）9階第5会議室において開催されました。

栗田晴夫会長からの開会あいさつに続いて、農林水産省競馬監督課和田剛課長補佐、日本中央競馬会木村一人馬事担当理事から来賓祝辞をいただきました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議

案の審議に入り、原案の内容にて承認されました。

第1号議案「平成30年度事業報告及び平成30年度財務諸表について」

第2号議案「平成31年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「理事及び監事の選任について」

育成技術講習会

平成30年

育成技術講習会は、JRA、BTC、当協会の3団体共催として、以下のとおり開催いたしました。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○東北地区

9月12日(水) 13:30~15:30

八戸家畜市場

演題：「馬と良好な関係の構築～馬のマインドに働きかける～」

講師：JRA 馬事公苑 工藤 将孝 氏

参加者数：35名 BTC 主催



○関西地区

11月14日(水) 13:00~14:00

JRA 栗東トレーニングセンター

乗馬苑

演題：「馬をコントロールするための騎乗者の役割」～実馬を用いた講習会～

講師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏

解説：JRA 馬事公苑 調査役 北原 広之 氏

参加者数：162名 JRA 主催

※育成協会 HP において動画配信しております。



○九州地区

9月27日(木) 13:30~15:30

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「馬と良好な関係の構築～馬事公苑で実施している引退競走馬のリトレーニング～」

講師：JRA 馬事公苑 専門役 宮田 健二 氏

参加者数：38名 BTC 主催



○関東地区

12月12日(水) 13:00~14:00

JRA 美浦トレーニングセンター

乗馬苑

演題：「馬をコントロールするための騎乗者の役割」～実馬を用いた講習会～

講師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏

解説：JRA 馬事公苑 調査役 北原 広之 氏

参加者数：200名 JRA 主催

※育成協会 HP において動画配信しております。



○北海道地区

11月21日(水) 17:30~19:00

(公社) 日本軽種馬協会 静内種馬場 覆馬場

演題：「馬をコントロールするための騎乗者の役割」～実馬を用いた講習会～

講師：JRA 馬事公苑 普及課 戸本 一真 氏

解説：JRA 馬事公苑 調査役 北原 広之 氏

参加者数：213名 育成協会主催

(詳細は2ページからの特集記事をご覧ください)

令和元年

令和元年も引き続き3団体共催として、以下のとおり開催予定です(一部は開催済)。会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数のご参加をお待ちしております。

○北海道地区

8月6日(火) 18:00~19:30

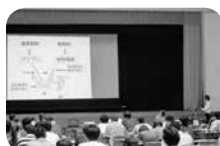
新ひだか町公民館・コミュニティーセンター

演題：「育成馬のスポーツ栄養」～競走馬に向けての栄養を考える～

講師：JRA 日高育成牧場 主任研究役 松井 朗 氏

参加者数：123名 育成協会主催

(今後の予定)



○九州地区

9月26日(木) 13:30~15:30

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは」

講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室長 佐藤 文夫 氏

参加者数：31名 BTC 主催

○関西・関東地区

(予定) 11月13日(水・栗東), 11月27日(水・美浦)

JRA 栗東・美浦トレーニングセンター 乗馬苑

演題：(実馬を使った講習会を予定)

講師：JRA 馬事公苑 職員(予定) JRA 主催

○東北地区

9月5日(木) 13:30~15:30

八戸家畜市場

演題：「競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは」

講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室長 佐藤 文夫 氏

参加者数：30名 BTC 主催

育成技術表彰事業について

1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われてきました(表1)。

2. 平成30年度の表彰事業について

- (1) 平成30年度の表彰件数は、対象510競走のうち、295競走となった。2歳新馬競走が75.2%、2歳重賞競走では88.9%という高い該当率となっており、全体でも57.8%という高い水準となった。これは295勝という数字と共に、平成18年に現行の

表彰対象競走となって以降、最高の該当競走数と該当率であった。

- (2) 平成30年度の表彰対象者は、表3のとおりです。

3. 平成31年度(令和元年度)の実施について

- (1) 表彰要件については、リステッド競走を新たな対象として加えました(表2)。これは、JRAがグレード競走に次ぐ重要な競走として、オープン競走のなかで質の高い競走をリステッド競走と新たに格付けしたことに伴い、拡充されたものです。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、昨年度と同様、札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯及び京王杯の各2歳ステークスの6競走で行う予定です。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳(4歳)以上重賞 競走の3歳馬・ダート重賞交流競走 (3・4歳限定)	39件	平成20年度		218件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成21年度		225件
平成14年度		163件	平成22年度		230件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和 (育成期間5ヶ月以上)	125件	平成23年度		229件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成24年度		250件
平成17年度		185件	平成25年度		232件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成26年度		272件
平成19年度		213件	平成27年度		280件
			平成28年度		275件
			平成29年度		284件
			平成30年度		295件

表2. 平成31年度(令和元年度)の実施について

種 目	表彰要件(注1、2)	賞 金	備 考
1. 新馬競走 2歳新馬競走 3歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走(地方競馬施行) (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入厩後42日以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	
4. 平地重賞競走等(2歳限定競走を除く) (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入厩後30日以内に優勝した馬を育成した正会員		
5. 1～4以外の平地オープン競走 (2歳及び3歳限定競走を除く)			ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 平成30年度 育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数													
			合計	新馬		2歳重賞			2歳交流重賞			3歳以上重賞			障害重賞	3歳以上オープン
				3歳	2歳	G I	G II	G III	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III		
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	109	11	89	3	1	4	1							
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	27	5	20			1								1
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	21									7	2	10		2
(株)吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	14	2	12											
(有)坂東牧場	坂東 正積	北海道	12	3	6		1	1	1							
(株)レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	11									2	2	4		3
(株)グリーンウッドパーク	永山 正喜	関西	9										1	2	1	5
(株)マエコーエンタプライズ大山ヒルズ	前田 幸治	関西	7		5			1								1
(有)下河辺牧場	下河辺俊行	北海道	6	1	5											
(有)ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	5	1	4											
(有)ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	5	2	3											
(有)宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	5		1							1		1		2
追分ファーム	吉田 晴哉	北海道	4		3									1		
(株)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	4	2	2											
(株)エクワインレーシング	瀬瀬 賢	北海道	4	2	2											
(株)シュウジデイファーム	石川 秀守	北海道	4		2											2
(株)吉澤ステーブル WEST	吉澤 克己	関西	4										1	1		2
(有)キタジョファーム	北所 直人	北海道	3	1	2											
(株)森本ステーブル	森本 敏正	北海道	3	2	1											
社台ファーム山元トレーニングセンター	吉田 照哉	東北	3											2		1
(株)小国ステーブル	小国 和紀	北海道	2	1	1											
田口トレーニングファーム	田口 廣	北海道	2	1	1											
(株)西山牧場	西山 茂行	北海道	2					2								
(有)ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	2	1	1											
(株)アクティファーム	加藤 祐嗣	北海道	2		2											
(有)ミホ分場	藤沢 美咲	関東	2													2
(株)愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	1	1												
(有)内田ステーブル	内田 裕也	北海道	1	1												
(有)グランデファーム	衣斐 浩	北海道	1		1											
(有)ランド牧場	伊藤 佳幸	北海道	1	1												
(有)コスモヴェューファーム	岡田亜希子	北海道	1		1											
(有)様似木村牧場	木村 薫	北海道	1		1											
(株)白井牧場	白井 岳	北海道	1		1											
(有)大作ステーブル	村田 大作	北海道	1		1											
(有)谷川牧場	谷川 貴英	北海道	1		1											
(有)チェスナットファーム	広瀬 亨	北海道	1		1											
(有)千代田牧場	飯田 正剛	北海道	1		1											
(有)ビクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道	1		1											
(有)ヒダカファーム	近藤 聡明	北海道	1		1											
(有)ビッグレッドファーム	岡田美佐子	北海道	1		1											
(有)三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	1		1											
(有)目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	1		1											
(株)オークヒルファーム	松園 洋	関東	1													1
(有)下河辺トレーニングセンター	下河辺行信	関東	1	1												
(有)ビッグレッドファーム絆トレーニングセンター	岡田美佐子	関東	1													1
(株)Tomorrow Farm	齋藤 野人	関東	1													1
京北育成牧場高宮ライディングパーク	小林 茂広	関西	1										1			
(株)ヒイラギステーブル	種本 大佑	関西	1										1			
(株)クラウン クラウンファーム	矢野 恭裕	九州	1		1											
表彰件数 合計		49 会員	295 勝	39	176	14			2			39			1 JG II	24
対象競走 合計			510 競走	54	234	14			4			117			10	77
該当率			57.8%	72.2%	75.2%	100%			50.0%			33.3%			10.0%	31.2%
対象競走				3歳新馬	2歳新馬	2歳重賞			交流重賞			3歳以上重賞			障害	オープン

平成30年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

平成30年11月3日(土) 東京競馬場

第54回京王杯2歳ステークス (GⅡ)

優勝馬 ファンタジスト (牡)

表彰会員名【1065】(有)坂東牧場

プレゼンター：栗田 晴夫 会長理事



平成30年11月10日(土) 京都競馬場

第53回デリー杯2歳ステークス (GⅡ)

優勝馬 アドマイヤマーズ (牡)

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

プレゼンター：中内田 克二 理事

〔競走馬育成協会 関西地域団体(支部)長〕

令和元年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

令和元年7月21日(日) 函館競馬場

第51回函館2歳ステークス (GⅢ)

優勝馬 ビアンフェ (牡)

表彰会員名【4031】(株)マエコーエンタプライズ大山ヒルズ

プレゼンター：高橋 司 理事

〔競走馬育成協会 北海道地域団体副(支部)長〕

なお、新潟2歳ステークス(GⅢ・8月25日・新潟競馬場)
は表彰該当牧場がありませんでした。



令和元年8月31日(土) 札幌競馬場

第54回農林水産省賞典札幌2歳ステークス (GⅢ)

優勝馬 ブラックホール (牡)

表彰会員名【1096】(株)吉澤ステーブル

プレゼンター：飯田 正剛 副会長理事

〔競走馬育成協会 北海道地域団体(支部)長〕

令和元年9月1日(日) 小倉競馬場

第39回小倉2歳ステークス (GⅢ)

優勝馬 マイネルグリット (牡)

表彰会員名【1073】(有)ビッグレッドファーム

プレゼンター：佐藤 光信 副会長理事



軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行う内容のものです。

貸付対象は大きく3種類に分けられます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵、その他協会が認める生産育成施設の改良、造成又は取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設、その他協会が認める生産育成用機械の改良、造成又は取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は平成5年から国の農業近代化資金の制度に準じて実施されており、平成22年までに9件の実績がありました。

近年、政府のマイナス金利施策により、融資機関が育成牧場事業主に対し低利による融資提供に動いており、新たな融資が平成29年に6件、平成30年に1件、令和元年も2件となっております（10月1日現在）。

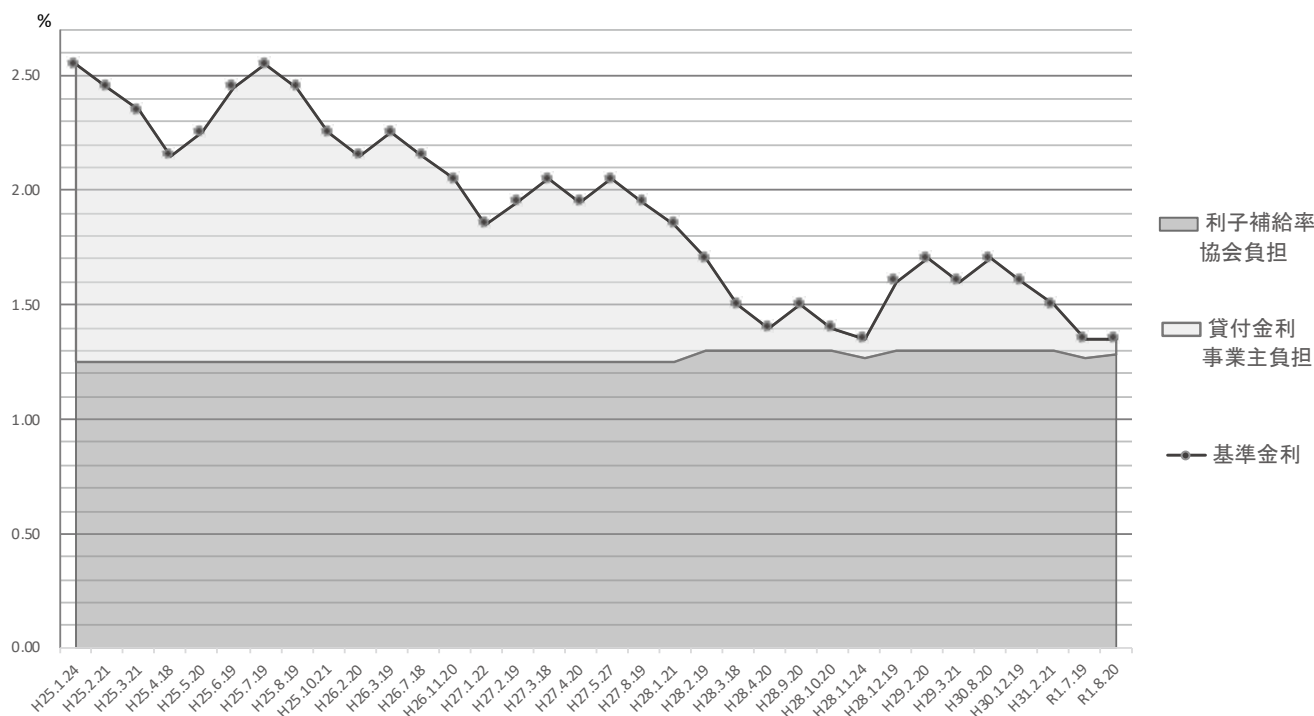
実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会等があります。

本事業についてご利用希望の会員の方は協会業務部までご連絡ください。

融資状況（令和元年10月1日現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
平成22年	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
平成29年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
平成30年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和元年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 平成25年～令和元年



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減、経営の安定化を図る目的により、JRA 関連施設で使用を取りやめた競馬関連機材等について会員に再利用を斡旋する内容の事業であり、平成15年より実施されています。

平成30年度は2回にわけ、7月に4機材、10月に14機材が、抽選の結果、会員に配付されています。応募が多く、希望者が重複する場合には、監事立会いのもと厳正なる抽選を実施し取得者を決定しています。結果等詳細は協会ホームページをご覧ください。

令和元年度は9月末～10月上旬にかけて、27機材程度の情報提供を行うべく準備を進めていますので、各地域団体（支部）からのお知らせ、及び、適宜協会ホームページの確認をお願いいたします。

なお、応募される際の注意点等につきましては、協会ホームページ内の本事業実施要領及び事業実施のためのガイダンスと留意事項を事前に必ずご一読願います。無抽選の場合を除き、当該年度に一会員一機材の取得となりますことをご了承ください。前回、同種機材の抽選にもれた場合、一回に限り同種機材への優先倍率が適用されます。機材によっては、残存減価償却費分の有償物件であったり、要修理事物、特殊機械の種別により高額な輸送費負担が想定されることがありますので、抽選後のキャンセル等無きよう、事前に熟考していただいた上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者のご協力を得ながら、情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 平成30年度・第2回〔10月29日（月）12件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	ウニモグ・ベンツ社製・学校	1台	JRA 競馬学校	平成7年 〔1995〕	無償	3	2	0	1	北海道
2号	ウニモグ・ベンツ社製・日高	1台	JRA 日高育成牧場	平成8年 〔1996〕	無償	3	1	1	3	北海道
3号*	ウニモグ・ベンツ社製・美浦	1台	JRAF 美浦事業所	平成10年 〔1998〕	¥10,800	2	1	0	1	北海道
4号*	ウニモグ・ベンツ社製・栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	¥110,000	0 (6)	—	—	—	北海道
5号	モーターグレーダー・新潟 (スカリ及びスノープラウ付き)	1台	JRA 新潟競馬場	昭和60年 〔1985〕	無償	3	1	0	2	東北
6号	ダンブトラック2t (4WD) 栗東	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥1,142,440	5	1	1	5	関東
7号*	ダンブトラック4t (4WD) 栗東18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥1,800,000	1	0	0	1	関東
8号	ダンブトラック4t (4WD) 栗東19-2	1台	JRAF 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	¥1,800,000	1	0	0	1	北海道
9号	芝刈り機 (リールモア)・ 札幌	1台	JRA 札幌競馬場	平成4年 〔1992〕	無償	7	2	1	6	北海道
10号	芝刈り機 (フロントモア)・ 栗東 7連	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥216,000	5	1	1	5	北海道
11号*	ミキシングハロー・東京	1台	JRA 東京競馬場	平成7年 〔1995〕	無償	1	0	0	1	北海道

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
12号	パワーハロー・栗東 3m・PTO 駆動	1台	JRAF 栗東事業所	平成16年 {2004}	¥108,000	8	4	2	6	北海道
13号	爪ハロー・栗東・20-2 4列6m	1台	JRAF 栗東事業所	平成20年 {2008}	無償	1	0	0	1	北海道
14号*	爪ハロー・栗東・20-3 4列6m	1台	JRAF 栗東事業所	平成20年 {2008}	無償	0	—	—	—	—
15号*	タインハロー・栗東 4m油圧式 18-1	1台	JRAF 栗東事業所	平成18年 {2006}	無償	3	2	0	1	関西
16号*	コンビネーションハロー・ 美浦	1台	JRAF 美浦事業所	平成18年 {2006}	¥1,976,400	0	—	—	—	—

※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員へは、今回の抽選時1回に限り2個の玉を投入した。

●一次募集（募集期間10/10～10/25）

※ 3号：当選者の辞退により、除外対象であった次位が繰り上り。

※ 4号：応募なしのため、同様機種（ウニモグ：1～3号）希望者6会員で、今回当選の無い者を優先し補欠抽選を行い、順次聞取りの結果。

※ 7号：同様物件当選者が辞退したため、類似機種である6号希望者の抽選順（2位以下）に順次聞取りの結果。

※ 14号：同様物件当選者が辞退したため、二次募集へ。

※ 11.15.16号：応募者なしのため、二次募集へ。

●二次募集（11.14.15.16号 募集期間 10/30～11/ 2）

※ 11号：除外対象であるが1件のみの応募のため、当選が確定。

※ 14号：応募者なし。

※ 15号：除外対象3件のみの応募のうち、今回当選のある2件を除外し、当選者を確定。

※ 16号：応募者なし。

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。

昨年度は、8月9日から10月31日の日程でアイルランドへ1名、11月2日から11月8日の日程で米国へ7名の研修生を派遣した。

本年度は（公財）軽種馬育成調教センター及び関西支部から推薦のあった同センター第36期卒業生5名を5月9日から8月5日までの約3ヶ月間の日程でアイルランドへ、5月14日から8月28日の日程でイギリスへ1名、7月25日から9月23日の日程でアイルランドへ1名、9月23日から11月30日の日程でオーストラリアへ1名派遣しています。

研修については随時受け付けを実施しております。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉強意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、（公社）日本軽種馬協会、（公財）軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としている。

平成31年1月から3月に申請を受け、承認された件数は合計5件でした。

3. 生産育成牧場就業者参入

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

BOKUJOB メインフェアを中心に日帰り見学会や夏休みを利用した滞在型体験会などの開催、Webサイトによる生産育成調教場の周知、仕事内容等の情報発信などを主な活動としており、平成31年度の活動状況は以下の通りです。

◎「牧場で働こう見学会」

（関東地区）3月9日「ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター」、「KSトレーニングセンター」、「松風馬事センター」

（関西地区）3月16日「グリーンウッドトレーニング」、「信楽牧場」、「ノーザンファームしがらき」

◎「BOKUJOB2019 メインフェア」

6月1・2日「JRA 東京競馬場」スタンド1階イーストホール

◎「BOKUJOB2019 関西フェア」

6月22・23日「JRA 阪神競馬場」アメニティホール1階

上記のようなイベントを継続的に実施することにより就活適齢期の対象者はもとより、それ以前の年齢層に対しても訴求効果が現れていると事務局では考えています。

◎「夏休み牧場で働こう体験会」

7月28日～8月2日（5泊6日）

協力：「岡田牧場、杵臼牧場、グランド牧場、様似町軽種馬共同育成センター、谷口牧場、宮内牧場」

◎「夏休み研修コース体験入学会」

8月26日～8月29日（3泊4日）「BTC 軽種馬育成調教センター、JBBA 日本軽種馬協会」

◎「BOKUJOB2019 広報&相談コーナー」

7月6・7日「JRA 中京競馬場」

7月23・24日「インターハイ馬術競技大会会場（御殿場市）」

8月10・11日「JRA 札幌競馬場」

8月25日 「JRA 宮崎育成牧場」馬に親しむ日

8月31日・9月1日「JRA 小倉競馬場」

本年度は上記の場所以外でもPRブースを設置し、広報活動を展開しています。設置場所は次の通りです。

4月23日 「JRA ブリーズアップセール」（JRA 中山競馬場）

5月20・21日「北海道トレーニングセール」（JRA 札幌競馬場）

6月20日 「大阪動植物海洋専門学校主催 合同企業セミナー会場」（大阪市）

10月24日 「日本学校農業クラブ全国大会」（山形市総合スポーツセンター）

◎「サラブレッドのお世話体験会 in 東京競馬場」

9月23日 「JRA 東京競馬場乗馬センター・競馬博物館との連携企画」

◎生産・育成牧場就職応援サイト「BOKUJOB.com」の運営
求人牧場掲載は無料ですので、会員の皆様のご利用をお待ちしております

◎「BOKUJOB ブログ」について

ブログに投稿していただける牧場を募集しています。「BOKUJOB」サイトの求人情報に拘らず、牧場の日々をご披露いただくなど、牧場就労に興味を持っていただけるように紹介しています。インターネットにて「BOKUJOB」、若しくは、「BOKUJOB ブログ」で検索していただくか、こちらのアドレスを入力ください「<http://blog.bokujob.com/>」。

賛助会員のご紹介

令和元年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠

Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

馬体の健康は大腸を強くするサラ LG から！
皆様に信頼され20年の実績があるサラ LG を販売しています。ご要望があればすぐに伺います！

サラ LG は馬が好む甘いオリゴ糖により飼料に混ぜるだけで食欲が増します。腸が元気でないと活力ができません。諦めずにサラ LG を与え続ける事によって馬自身で栄養を生成していきます。レースの疲れを軽減するだけでなく、よく眠れる事でスイッチのオンオフが入りやすくなると言われています！



株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗

Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2002
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデンア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武

Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二

Tel.06-6780-5270 Fax.06-6780-5280
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫

Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄

Tel.077-558-2468 Fax.077-558-2001
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山906-1

株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏

Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811
E-mail houseshoe@taiwa-co.com

株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌

Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

JRA からのお知らせ

生産牧場・育成牧場 関係者各位

日本中央競馬会

平素より中央競馬の公正確保にご協力いただきありがとうございます。
JRA では、先般発生した競走馬に与える飼料への禁止薬物混入事案を受け、JRA 施設内で競走馬に与える飼料の管理体制を強化いたします。

JRA 施設内で飼料を販売する業者については承認制とし、各厩舎が競走馬に与えることができる飼料は承認された業者から納品を受けた飼料のみとなります。

令和2年1月1日より、牧場から厩舎へは飼料^{*}一切を持ち込むことができなくなりますので、ご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

JRA 理事長達

『競走馬に対する薬物等の使用の取締りに関する獣医委員の指示事項』
(抜粋)

《変更前》

厩舎関係者が使用することができる飼料添加物（中略）は、公益財団法人競走馬理化学研究所による検査を受けたものに限るものとする。



《変更後》

厩舎関係者が本会施設において競走馬に与えることができる飼料は、飼料薬物検査管理委員会が定める飼料薬物検査実施要領に則ったものであって、理事長が認めたものが厩舎に納品したものに限るものとする。

※JRA での飼料とは、以下のものとなります。

単体飼料（単一の原料品から成る飼料）、配合飼料および補助飼料
（競走馬の栄養摂取を補助することを目的としたサプリメント等の飼料）

◆ 地方競馬の馬主になりたい

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。
地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。
インターネット「地方競馬 馬主」で検索。

地方競馬 馬主

検索

または、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト

http://www.keiba.go.jp/association/owner_faq.htmlでもご覧いただけます。

〔問合せ先〕 担当：地方競馬全国協会 審査部 登録課 電話 03-3583-2142 (平日 9時30分～17時30分)

◆ 競走馬育成協会人事異動

【退任】

総務部長 中本 光亮

総務部 藤崎 明美

【就任】

総務部長 近藤 高路

総務部 松下 洋子

◆ ホームページのご案内

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。他、各種事業内容等掲載されていますのでご活用ください。



いくせい

2019 57号

発行日 令和元年10月1日
発行 公益社団法人 競走馬育成協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4
日本中央競馬会新橋分館4階
TEL. 03(6809)1821 FAX. 03(6809)1822
E-mail : kgj00522@nifty.ne.jp
URL : <http://www.ttda.or.jp>

編集責任者 佐藤光信
制作・印刷 西谷印刷株式会社

